第3回Heerenveen sprint競技会
第7回Heerenveen long distance競技会

オランダ・ヘーレンヴィーン・ティアルフ(Thialf)
2010年3月22-23日および24日
報告者　板東　浩
(徳島県SCスピード部長 日本体育協会スポーツドクター)

【参加選手】

板東　浩、坂本浩一、河田　泰
近藤正司、相沢英一、高橋千昭

はじめに

従来、国際マスターズスピードスケート委員会(International Masters' Speed Skating Committee,IMSSC)は、各地で国際競技会を開催している。2010年3月22,23日にスプリント競技が、24日に長距離競技がオランダのヘーレンヴィーンで開催された(図1)。本競技会に日本人6選手が参加し、マスターズの国際的活動として貴重な機会を得たので、概略を報告する。

1. 国際マスターズ委員会

IMSSCは1994年に発足し活動を続けてきたが、近年は、国際スケート連盟(ISU)の幅広い事業の中の一つ(ISU Masters' Speed Skating Working Group, IMSSG)という位置づけになってきた。最近の動向として、09/10シーズンでマスターズ選手権が10回、そしてIMSSCのメインとなる大会が『世界マスターズ・スプリント競技会(米国ミルウオーキー)』と『世界マスターズオールラウンド競技会(イタリアピネ)』の2回、総計9カ国、10会場、12大会が予定され、各大会には、各国から総勢200～ 250名程度参集している。

Announcement

The "Masterscircuit Langebaanschaatsen Nederland" hereby takes the pleasure to invite you to take part in the international speed skating competition

3rd Masters' International
HEERENVEEN SPRINT

Heerenveen/The Netherlands
Monday, March 22nd and Tuesday, March 23rd
2010

図1　第3回国際マスターズ・スプリント競技会

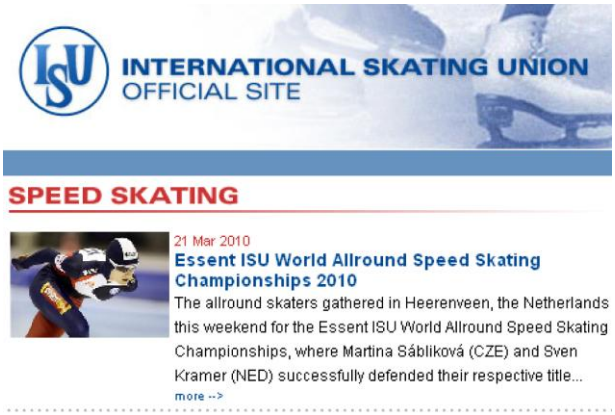

図2　ISUと世界オールラウンド選手権2010

2. 世界初の室内リンク・Thialf

今回、国際マスターズ競技会が開催されたのは、オランダの北東部Heerenveenにあるティアルフ(Thialf)である(図1)。本アイスアリーナは1986年に設立された世界初の室内400mリンクで、関係者に広く知られる。毎年2つのSpeed Skating World Cupを開催してきている。

ちょうど2010年3月19～21日には、世界オールラウンド選手権が行われ、日本代表の4選手も参加していた(図2)。これに引き続いて、今回のマスターズの2大会が行われたのである。

3. マスターズ日本選手6名が参戦

世界に誇る本邦の国体で、冬季のスピードスケート部門には、以前A、B, Cの年齢枠カテゴリーがあった。その後廃止されたが、国体で20回の優勝歴を有する関さんらの尽力により、BC枠の選手がマスターズ大会に移行している。

図3　日本から6戦士世界初の室内リンクThialfで、写真左から、相沢、近藤、河田、坂本、板東、高橋各選手。

Skating (財) 日本スケート連盟会報
22/4
127号　P78～79

表1　スプリント競技会のスケジュール

TIME SCHEDULE:
(09.15h is a fixed time, others are flexable)

07.45-08.30 Registration and payment.
08.30-09.00 Ice Training
09.00-09.15 Ice Preperation
09.15-10.00 500m (20Q)
10.00-10.15 Ice Preperation
10.15-11.00 500m (Remaining Q)
11.00-11.15 Ice Preperation
11.15-12.15 1.000m (20Q)
12.15-12.30 Ice Preperation
12.30-13.30 1.000m (Remaining Q)

数年前からマスターズ国際大会への出場を模索していたところ、2009年末、スケート領域で活動中の高井健志氏から情報がもたらされ、日本スケート連盟にも相談しながら準備を進め、今回6名が参戦させていただくことになった。

オランダの担当者であるBram氏とは頻繁にメールで連絡を取り合い調整を行った。その結果、通常、締切日までに予定人数に達するため遅いエントリーは認められないが、今回は日本の出場者を特別枠として引きうけて下さるという想定外のご配慮まで得ることができた。

その結果、2010年2月のマスターズ大会の際にも参加呼びかけが可能となり、6選手がエントリーできた。別の表現を許していただければ、「6人の侍が、刀の刃を研ぐようにスケートの刃を磨き、心身の鍛錬を重ねて心も研ぎ澄まし、国際舞台に斬り込んだ」、と比喩できるかもしれない。

スプリント競技会のtimetableを表1に示した。22,23日ともに0915～1330分にレースが行われ、予定通りに終了できた。表中に20Qとあるのは、20組X4名で80名の滑走を表す。

4. スプリントおよび長距離のレース

今大会における6選手の成績を表2にまとめ、本大会で興味深く感じた点を列記したい。

A) パーソナルベスト(PB):フィギュア大会と同様に、参加者リストや会場の電光掲示板にも、パーソナルベスト(PB)が示される。PBの明記は、動機づけや実力アップ、仲間とのコミュニケーションにもプラスになると思われた。

B) 出走順:滑走ペアは年齢枠ではなく、PBで割り振りされる。利点は好タイムが期待され、次に述べる4人滑走が可能となることである。

C) カルテットスタートを採用:500mでは前2者が100mを過ぎた付近で、1000mではほぼ200mで後2者がスタートし、リンク上で4人が滑走する。そのため、今回選手144名が500mと1000mの2レースを約4時間で完了できた(表1)。

D) 大会運営とプログラム:全体的に、運営委員会のマネジメントは非常に円滑で慣れていた。当日配布するプログラムはなく、参加者一覧や出走表は、ホームページ(HP)上で発表し、各自が印刷して持ってくる方法である。

E) 各国から歓迎:日本選手団と一緒に写真を、という場内アナウンスに、快く各国選手が応じてくれ、将来の期待を感じた(図4)。

表2　参加6選手のタイムと成績

Date	Skater	Sakamoto	Bando	Kondo	Kawata	Takahashi	Aizawa
	Category	C	C	D	E	A	C
	age	50-54	50-54	55-59	60-64	40-44	50-54
22-Mar	500m	51.43	52.94	44.73	55.54	42.93	
	1000m	1.46.67	1.46.62	1.32.01	1.53.05	1.24.56	
23-Mar	500m	49.72	51.61	44.83	55.18	42.44	
	1000m	1.41.46	-	1.30.76	1.51.98	1.26.22	
	Ranking	7th in C	-	8th in D	8th in E	6th in A	
24-Mar	500m	48.69				42.67	45.17
	3000m	5.41.40					4.59.79
	5000m					7.39.18	
	Ranking	17th in C				4th in A	10th in C

おわりに

このたび、国際マスターズ競技会への参加という貴重な機会を賜り、日本スケート連盟および関係者各位に深く感謝申し上げたい。この経験をスケート関係者に伝えることによって、マスターズ世代だけではなく、指導で関与している今後のジュニアの育成にもプラスとなるであろう。

また、将来、国際マスターズの場で、日本のマネジメントの手腕が評価され期待される日も近いのではないかと思われる。

図4　各国からの暖かい歓迎